



Wolters KluwerのTeamMate監査ソリューション

BRFとTeamMate+： 進化し続ける内部監査を ナビゲートする



様々な文化や地域で働く内部監査スタッフを管理することは困難な場合があります、リソースの集約が必要です。特に、複数の規制機関の厳しい審査に応じるとなるとなおさらです。

そうしたプレッシャーがあるため、企業は組織の内部監査機能を絶えず適応・進化させていく必要があります。これは、とりわけ**ブラジルを拠点とするBRF**のような多国籍企業においては不可欠です。BRFは、鶏肉、豚肉、マーガリン、パスタ、ピザ、冷凍食品などにおいて30以上のブランドポートフォリオを有する世界最大級の食品加工メーカーです。創業90年の歴史を持つ同社は、5大陸127カ国以上で事業を展開し、世界中の顧客に製品を販売しています。

TeamMateは、BRFの**ルイス ガルシア**最高監査責任者、**ヴァルミール グローリ**監査マネージャー、**ロバート ロサット**監査コーディネーターに話を聞く機会を得て、リスク管理の重要性の高まりに伴い、内部監査の深度と範囲が拡大したことで、監査人にはより透明性の高いリスク管理が求められていることを学びました。

現在、BRFの内部監査人は、TeamMate+ 監査管理システムを利用してリスクを定義・管理する一方で、組織に最も大きな影響を与える可能性がある分野により注力するなど、さまざまな方法を駆使してこうした規制面の課題に対応しています。



TeamMate : BRFにおける内部監査の役割について教えてください。

ルイス ガルシア : 当社の内部監査機能は、BRFの飛躍的な成長と拡大に伴い、ここ数年間で急激に強化されました。75名の監査人からなる監査チームが、全世界のBRFの事業で存在感を持っています。監査チームは、3名のエグゼクティブマネージャーと、スペシャリスト、シニア、ジュニアの各ポジションに就いている監査人で構成されています。内部監査活動の職務上の報告先は監査委員会を経由しての取締役会であり、運営上の報告先はBRFのCEOです。

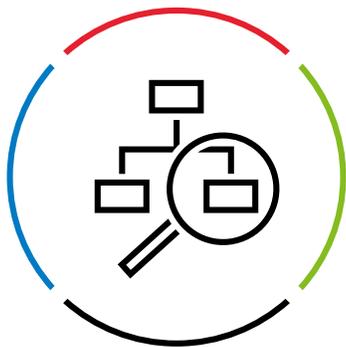
BRFの本社はブラジルのイタジャイにあり、ブラジル、パラグアイ、トルコ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦の5カ国に44の工場を所有しています。BRFの内部監査チームは、全拠点におけるすべての監査レビューを担当しています。先ほど申し上げたように、当社の内部監査チームはここ数年間で100%以上という驚異的な成長を遂げました。そして偶然にも、この成長は、Wolters Kluwerの監査管理ソリューションであるTeamMate+を導入した時期と重なっています。

TeamMate : BRFは、企業文化の一部として持続可能性にどのように取り組んできましたか？

ルイス ガルシア : BRFは、サステナビリティを行動指針としているグローバル企業です。私たちは、人々の環境への不安を考慮しつつ、BRFの社会的発展と持続可能な消費の推進に取り組んでいます。当社が直面している課題は、バランスの取れた供給体制を構築し、ネットワークを構成する全員のために価値を生み出すことです。BRFは、ブラジルの証券取引所（B3）の企業サステナビリティ指数（ISE）のポートフォリオの一部となっています。ISEとは、企業のサステナビリティに関してB3上場企業のパフォーマンスを比較分析するツールです。この分析は、環境バランス、社会正義、コーポレートガバナンス、経済効率に基づいて行われます。内部監査はこのプロセスにおいて重要な役割を果たしています。BRFを守り、事業に付加価値を与え、サステナビリティに関する戦略的目標の達成に貢献することを目的に、サステナビリティにも焦点を当てた独立性のある客観的な監査を実施しています。

「BRFは、サステナビリティを行動指針としているグローバル企業です。私たちは、人々の環境への不安を考慮しつつ、BRFの社会的発展と持続可能な消費の推進に取り組んでいます」

ルイス ガルシア
最高監査責任者



TeamMate : では、日々のワークフローについて、TeamMate+がそのプロセスをどのように強化し、監査の生産性を向上させているかについてお聞きしたいと思います。

ルイス ガルシア : 長年にわたり、私は内部監査の役割の変化を目の当たりにしてきました。その一つが、内部監査は取締役会により密接に関係し、経営アジェンダとの整合性を高めるものである必要があるということです。内部監査チームは、監査計画の策定から往査の実施、報告書の分析、アクションプランの実施状況のモニタリングに至るまで、監査プロセス全体を遂行する責任を負っています。私たちは、監査委員会およびBRFの上級管理職に、報告書のサマリを提出しています。

TeamMate+は、私たちが複雑な監査サイクルを受け入れ、監査ワークフローを効率的かつ効果的に進めるのに役立っています。TeamMate+の自動化された機能により、私たちはプロセスを完全に追跡し、以前は手作業で行っていたアクションを、オンラインで一斉かつ迅速に実行できるようになりました。また、単一のツールを使うことで、監査ワークフローの改善点を特定することもできるようになりました。

TeamMate : TeamMate+の導入を決定する上で、他に決め手となったものはありましたか？

ルイス ガルシア : 2014年に当社は監査ソフト導入の検討を行い、そして2020年には内部監査人協会 (IIA) の内部監査基準の認定を取得するためのプロセスを開始しました。認定プロセスをうまく進める上で重要だったのが、コンプライアンス、監査手法、情報管理の取り組みをサポートするTeamMateでした。TeamMate+は、生成される膨大な量の情報を高い信頼性と確実性を持って管理・分析するのに役立っています。これは内部監査の目標を達成するための要であり、私たちは上級管理職や取締役会へのプレゼンテーションの際、自信を持って行うことができます。

IIA認定を取得し、その要件を満たし続けるために、また、世界最高の内部監査部門になるという私たちのビジョンを実現するためには、それをサポートできるソリューションが必要でした。チームにそうした高い専門性を求めるのであれば、それと同レベルのソフトウェアが必要です。私たちの選定プロセスはかなり厳密でしたが、群を抜いていたTeamMate+が最終的に選ばれました。



TeamMate : TeamMate+ を利用して、どのような効率化が図れましたか？

ヴァルミール グローリ : TeamMate+ にアップグレードしたのは、IIA 認定取得のための監査手法を再構築し始めた時でした。当時の内部監査チームは、新しいソフトウェアソリューションの使い方を学んだだけでなく、チームを増員し、プロセスを見直し、監査件数を増やしているところでした。私たちは一度に多くの変化を経験し、学習曲線は急上昇しました。TeamMate+ の導入後の進化を見ると、監査の有効性が約30%向上し、その結果、監査サイクルの効率性の向上（サイクルの高速化）、監査品質の向上（エラーの減少と手戻りの最小化）、認定を維持するためのIIAの各種ルールへのコンプライアンス強度の向上（監督の追跡）が実現しました。また、毎年大量のアクションプラン（フォローアップ事項）が作成されるため、フォローアップの効率性と品質の向上が実現したことも強調しておかなければなりません。

当社は監査計画の継続的な改善に取り組んでいる組織として、手作業による紙ベースのプロセスや、地理的に分散したチームに関連する課題を解決することで、内部監査のワークフローにおけるあらゆる面での効率化を推進しています。もう一つのメリットは、他のシステム、特にKPIのレポート関連システムとの連携が容易なことです。私たちはPower BIを使用してKPI指標を生成し、それをパフォーマンスダッシュボードと連携させて、価値あるインサイトを組織に提供しています。

最終的な監査報告書は別に作成しますが、それは主に、監査報告書の書式が若干異なるためです。チェンジコントロール、レビュー、承認などのすべてをTeamMate+アプリケーションで行うことができます。このおかげで、一貫したトレーサビリティを維持することができるのはもちろん、TeamMate+の持つメリットと柔軟性がさらに発揮されます。

「TeamMate+ にアップグレードしたのは、IIA 認定取得のための監査手法を再構築し始めた時でした。当時の内部監査チームは、新しいソフトウェアソリューションの使い方を学んだだけでなく、チームを増員し、プロセスを見直し、監査件数を増やしているところでした」

ヴァルミール グローリ
監査マネージャー



TeamMate : TeamMate+のどの機能を最も使用していますか？ また、どの機能が最大の価値を提供していると感じていますか？

ルイス ガルシア : 監査管理の観点から見ると、TeamMate+の大きなメリットは、監査プログラム内での分析、記録の維持、承認の取得が全体的に容易であることに関係していると思います。これらはすべて監査報告書に含まれている事項です。個人的にディレクターとしては、モニタリング計画を実行するために作成されるアクションプランのデータや数値を得られることが、最も興味深く有用な機能だと思います。内部監査業務の有効性は、アクションプランが実施されて初めて達成されるものです。私たちはアクションプランの実施を通して個々の監査目標を完全に達成し、組織に満足いく結果を提示してきました。同じ成果を出し続けるためには、内部監査プロセスの継続的な改善が常に必要です。

TeamMate : TeamMate+を導入する前の監査の方法と比較して、現在のワークフローはどんな感じですか？ どのようなメリットがありますか？

ロバート ロサット : 当社の IIA 基準による監査手法では、適切な結果を得るために、各監査は一貫した一連のステップ（チェックリスト）に従って行われます。このチェックリストをレビューや承認の情報と共に TeamMate+ に記録しています。

TeamMate : TeamMate+が提供するその他のソリューションについて検討したことがありますか？ また、将来的に導入を検討していますか？

ロバート ロサット : まだインストールはしていませんが、TeamMate+ではすでに、たとえばアジャイル監査手法を使用することが可能です。これは現在トレンドの手法で、私たちが導入を検討しているものでもあります。これと合わせて、人工知能や機械学習、アナリティクスを利用した大量のデータ処理など、新たに登場した他の新しいテクノロジーも視野に入れて検討をしているところ です。

TeamMate : TeamMate+ の導入に関心のある他の組織に何かアドバイスはありますか？

ルイス ガルシア : TeamMate+ が、多くの努力と適応が要求される IIA 認定取得の準備にどれほど役立ったか、いくら強調してもしきれません。TeamMate+ ソリューションの導入方法と、貴社のカスタマーサービスとサポートには非常に満足しています。長年にわたる Wolters Kluwer とのお付き合いは極めてポジティブなものです。

内部監査人の役割は進化し続けていますが、それと同時に、監査管理ソリューションも私たちと共に成長していくことを願っています。私たちは、従来の内部監査の役割を踏襲し、統制

に関するのみに焦点を当てているわけにはいきません。私たちは会社の経営問題における当事者となり、持続可能性、気候、人工知能といった、これまで内部監査があまり取り上げてこなかった多くのテーマについて、最先端の議論を始めなければなりません。

内部監査は、会社の戦略目標を実現する上で、主導的、先駆的、革新的な役割を果たさなければならないのです。これが、私が思い描いている将来の私たちの責任です。しかし、私たちの成功は、データを理解し、分析し、管理する能力にかかっています。このような未来を実現するためには、信頼できるソフトウェアが不可欠です。それが TeamMate+ をパートナーに選んだ理由です。

お問い合わせ先

南北アメリカ

4221 W Boy Scout Blvd #500
Tampa, FL 33607
U.S.A.

詳細については、tm.wolterskluwer.com
をご覧ください。

ヨーロッパ、中東、アフリカ

8th Floor
30 Churchill Place
Canary Wharf
London
E14 5RE
United Kingdom
電話：+44 20 3197 6566

アジア太平洋

5 Shenton Way
#20-01/03 UIC Building
Singapore 068808